

社会学部

I 2018年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2018年度大学評価結果総評】(参考)

社会学部が2018年度から導入した新カリキュラムは、それまでのカリキュラムよりも順次性・体系性が大幅に向上し、社会学部が掲げる教育理念や目標に適した教育課程・教育内容を実現している。新カリキュラムにおいては、社会学部の科目は「総合科目」「学科専門科目」「外国語教育プログラム」の3つの科目群に大別され、この3つの科目群が、「入門期」(1年次)、「能力形成期」(2～3年次)、「総仕上げ期」(4年次)という3つの教育段階に沿って段階的に編成されている。各学科が開設する「学科専門科目」は、「入門科目」「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」「コース専門科目」の4つに分類され、年次ごとの順次性が明確に示されている。初年次教育や高大連携、キャリア教育にも適切な配慮がなされたカリキュラムとなっており、非常に優れたカリキュラム改革が行われたと高く評価できる。

新カリキュラムに対する学生たちの理解を深めるために、4月の履修登録締め切り前に「教員による履修相談会」を開催したり、秋学期のコース登録前に学科ごとのコースガイダンスを実施したりしており、学生の混乱を防ぎ、新カリキュラムへの移行を円滑なものにするための対策もしっかりと練られている。

カリキュラム改革と連動するかたちで教員人事についても中期計画を策定するなど、カリキュラム改革を軸にして、さまざまな改革が同時並行的に行われており、近い将来に大きな成果が現れることが期待される。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

大学評価委員会の評価については、これまでの本学部の取り組みの方向性がおおむね評価されているものと判断し、現状の方向性を維持しつつ、引き続き本学部における教育研究の質の向上に向けて努力していく。

本学部では2016年度から2017年度にかけて教学改革・人事構想委員会を設置し、カリキュラム改革と教員人事の中期計画策定に取り組んで来た。2019年度は新カリキュラムの実施2年目にあたり、カリキュラム運営の状況を評価し課題を教員間で共有するために、引き続き各学科の教員全員が参加する「学科カリキュラム運営会議」を春・秋学期各1回開催する。

学生に対しては、4月の履修登録締め切り前に複数日にわたって「教員による履修相談会」を開催し、学生の疑問・不安に答えることで、新カリキュラムへのスムーズな導入をはかっている。また、2年生以降のコース選択を的確に行えるように、1年生秋学期のコース登録前に学科ごとのコースガイダンスを実施する。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

社会学部では、カリキュラム改革と教員人事の中期計画策定に沿って、学部の教育、運営に対する改革を続けてきたことがうかがえる。新カリキュラムの実施2年目にあたる2019年度も「学科カリキュラム運営会議」を各学期に開催するなど、学部教員全員の問題意識を高める工夫が行われている。学生に対しても、履修登録に向けた「教員による履修相談会」、2年次のコース選択のオリエンテーションを1年次に開催するなど、学生の立場に立って必要な情報を提供する努力を行っている」と評価できる。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2019年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

2018年度から導入した新カリキュラムでは、社会科学に関する専門教育は「学科カリキュラム」によって体系的に行われる。「学科カリキュラム」は、各学科がそれぞれカバーする領域に関する専門知識を身につけることができるように組まれている。学科カリキュラムを構成するのは「入門科目」「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」「コース専門科目」の4つの科目群である。前三者は、その学科に所属する学生が共通して身につけるべき専門知識修得の3つのステップに対応している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>1 年次に履修する「入門科目」で学科がカバーする領域への導入を行った後に、「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」の履修によって、学科が対象とする領域に関する理論や方法論に関する理解をさらに深める。</p> <p>以上を基礎にして「コース専門科目」の履修を進めることで、関心のあるテーマに関する知識を深めるとともに、「学科共通基礎・展開科目」で学んだ知識に、より具体的な肉付けを行っていく。</p>	
<p>【2018 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>社会学部では 2018 年度から新カリキュラムを導入し、各学科が求める能力の習得を尊重しながらも学科カリキュラムに「入門科目」「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」「コース専門科目」という学部共通の体系性を持たせるように配慮した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページ URL や掲載冊子名称等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2019 年度社会学部履修要綱 ・ 2019 年度社会学部カリキュラムツリー（履修要綱に掲載） ・ 2019 年度社会学部カリキュラムマップ（履修要綱に掲載） 	
② 学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	S A B
<p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>2018 年度から導入した新カリキュラムは、「総合科目」「学科専門科目」「外国語教育プログラム」という 3 つの科目群に体系的に構成されている。その上で 4 年間の一貫教育システムを採用し、大学生活を大きく三期に分けて位置付けている。第一期は、1 年次で入門期にあたる。この時期は、基礎演習における教員との交流、視野形成科目などの総合科目、そして所属学科カリキュラムの入門科目などの 1 年次から履修できる学科専門科目の受講を通して、2 年次以降に知識を深めたい分野やテーマを自由に模索する時期である。</p> <p>第二期は、2 年次・3 年次の 2 年間で、専門科目の学修と研究を進める中心的期間である。この時期には、学科共通基礎科目で専門的な基礎学力を身につけ、さらに、コース専門科目の履修により自らの関心を追究しながら、学科共通展開科目の履修によって知的技能と研究手法を修得する。</p> <p>第三期は、4 年次で、大学生活の総仕上げをする時期である。卒業論文の作成等を通して社会学部で 4 年間学んだことの集大成を行う。</p>	
<p>【2018 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>社会学部では 2018 年度から新カリキュラムを導入し、「学部共通カリキュラム」と「学科カリキュラム」という 2 つの柱の下で、「入門科目」「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」「コース専門科目」という体系を整理し直した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2019 年度社会学部履修要綱 ・ 2019 年度社会学部カリキュラムツリー（履修要綱に掲載） ・ 2019 年度社会学部カリキュラムマップ（履修要綱に掲載） 	
③ 幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	S A B
<p>※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>「総合科目」のなかの「視野形成科目」群は、幅広く深い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を育てるという目的を達成するため、「人文科学系科目」(A 群) や「国際・社会科学系科目」(C 群) に加えて、「自然科学系科目」(B 群) についても専任教員が担当する科目を配置し、専門教育と相互に補完しあえるような教養教育の充実を図っている。また、ワーク・ライフバランスを重視した人間形成という意味でのキャリア形成を促すことを目的とした「キャリア形成系科目」(D 群) を設置している。</p>	
<p>【2018 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>2018 年度から導入した新カリキュラムでは、「視野形成科目」を構成する科目についても一部見直しを行った。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2019 年度社会学部履修要綱 	
④ 初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S A B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>初年次教育は 2 つに分かれる。1 つめは、専門教育への導入と、スタディー・スキルや能動的な学びへの態度転換を目的とする「基礎演習 I・II」である。「基礎演習 I・II」は、教育すべき項目を春・秋学期に分けきめ細かい教育を行って</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

<p>る。2 つめは、基本的な専門知識の修得を目的とする所属学科ごとの入門科目などの 1 年次から履修できる学科専門科目である。いずれも本学部の 4 年間一貫教育の中の入門期に位置づけられる。</p> <p>春学期に開講する「基礎演習Ⅰ」では、大学での学修に必要な文献の読み方、文献・資料の探索・検索方法、プレゼンテーションの技法等を中心に学ぶ。秋学期に開講する「基礎演習Ⅱ」では、みずからの研究のためのテーマや問題の立て方、論文の書き方等を中心に学ぶ。所属学科ごとの入門科目では、2 年次および 3 年次の知的技能・研究手法修得期にむけた視野の広がりや基礎知識の修得を目的とした学修を行う。</p>	
<p>【2018 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>2018 年度から導入した新カリキュラムでは、入門科目など 1 年次から履修できる学科専門科目の見直しを所属学科ごとに行った。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・ 2019 年度社会学部履修要綱</p>	
⑤ 学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>語学では「学びたい人が自由に学ぶことができる」L 字型のカリキュラムを設定している。すなわち、必修外国語科目 (Basic English1・2、諸外国語初級 A・B、日本語 1・2・3) で「基本的なところをしっかりと」学び、意欲に応じて外国語教育プログラム科目を履修することで、語学力を高めることができる仕組みになっている。</p> <p>また、社会学部には、提携機関に留学して修得した単位が定められた上限内で卒業所要単位に認定されるスタディ・アブロードプログラム (SA プログラム) 制度や、長期休暇を活用した単位認定海外短期留学制度も用意されている。</p> <p>また、対象領域ごとにコースを編成した社会政策科学科と社会学科には、国際性の涵養に重点をおいた「グローバル市民社会」コースと「国際・社会」コースを設置している。これらのコースに設置された科目は全学科の学生が履修可能である。</p>	
<p>【2018 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>学部 SA プログラムの参加要件を留学半年前の単位取得状況とするなど、SA プログラムの適切な運用が図れるように変更した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・ 2019 年度社会学部履修要綱</p> <p>・ Study Abroad Programs Guide 2020</p>	
⑥ 学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>キャリア教育は、「職業社会論」、実務経験のある教員による「特講 (インターンシップ)」、キャリアセンターと合同で行う「キャリアデザイン論」、学科横断的な専任教員の参加による「社会を変えるための実践論」が開講されている。これらの試みを体系的に位置づけるために、「総合科目」の「視野形成科目」の中に「キャリア形成科目」(D 群) が設置されている。就職活動への意識付けにとどまらず、社会での働き方や生き方を考えるという視点も本学部独自の特徴となっている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・ 2019 年度社会学部履修要綱</p>	
<p>1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>	
① 学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教務委員会を中心とした履修登録期間 (4 月) の全年対象「教員による履修相談会」(複数日) ・ 成績不振学生を対象とする教員による個別面談 (6 月実施、2015 年度より) ・ 各コースの代表者によるコース選択のためのガイダンス (11 月末～12 月初旬) ・ コース選択時期 (12 月上旬) の 1 年生対象「教員によるコース選択相談会」(複数日) ・ 基礎演習及び専門演習担当教員による学生への応談 (随時) 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・ 2019 年度社会学部履修要綱</p>	
② 学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

<p>※取り組み概要を記入。</p> <p>本学部では1年次に基礎演習、2年次以降は専門演習が設置されており、各演習の担当教員は、基礎演習では大学への定着を含めた学習指導、専門演習では3年間の継続的な指導により可能となるきめ細やかな学習に関わる助言と支援を精力的に実施している。大学院進学など、アカデミックなニーズの高い学生に対しては、演習だけでなく、各学科で開設される実習科目や特殊講義でも教員が相談に応じている。そして、全教員がオフィスアワーを設置し、授業の受講者か否かに関わらず、学生のニーズに応じた学習指導を行っている。</p> <p>2015年度より、成績不振学生に対して教員による個別面談を実施し、学生が抱える問題の把握と解決に努めている。</p>	
<p>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>2019年度シラバスから冊子の配布を取りやめたことに伴い、それを補うために履修相談会で学生に対してきめ細かい指導を行った。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度シラバス ・2019年度社会学部履修要綱 	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p>シラバスの「授業時間外の学習」項目の記載を徹底する一方で、具体的な実践については各教員の創意工夫と試行を尊重している。授業時に配布・回収する学生からの「リアクション・ペーパー」に対する次回授業内での回答を通じた到達度の確認や、授業中および授業時間外でなされる双方向的なやりとり（質問・コメント）の重視、学生に与えた課題に対する解答を元にした授業展開、授業支援システムの予習・復習のための積極的活用など、その実践は多岐に展開されている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度社会学部履修要綱 	
④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「社会を変えるための実践論」：複数教員による集団指導と、学生スタッフの授業運営への参加。 ・「社会学への招待」：教員による集団指導。 ・「社会調査実習」：社会調査の企画・設計から、実査、分析、報告書執筆・刊行にいたる全過程の体験・修得。 ・「メディア社会学実践科目」：各コースの「理論」「技法」科目を基礎に学生が行うメディア表現・分析・設計。 ・実務家などを講義に招く「ゲスト講師」制度の設置 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度社会学部履修要綱 	
⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語学については、効果的な語学教育に適した均質な学習環境を提供できるよう配慮している。 ・基礎演習については、初年次教育が円滑に進むようクラス編成に配慮している。 ・専門演習については、原則として全学生の履修を保証するために、受け入れ学生数の目安を教授会で申し合わせている。 ・実習科目（政策データ分析実習、政策フィールドワーク実習、社会調査実習、メディア社会学実践科目、クリエイティブ・ライティング、ニュース・ライティング）については、科目ごとに内容に即して指導可能な学生数を設定している。 ・情報教育科目については、実習室の規模に即して、学生数を設定している。 	
<p>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>HOSEI2030 キャンパス再構築特設部会多摩 WG「共通科目検討委員会」に参加し、多摩4学部における諸外国語の共通科目化について検討を行った。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度社会学部履修要綱 ・専門演習について（教授会配布資料） ・HOSEI2030 キャンパス再構築特設部会多摩 WG 共通科目検討委員会 議事メモ 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S A B
<p>【確認体制および方法】 ※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 執行部と教務委員会による、GPCA データ・評価比率データを活用した成績分布の検証（この結果、大半の教員がシラバスの「成績評価の方法と基準」項目に厳格かつ適切な基準を明記し、適切に成績評価と単位認定を行っていることが確認されている）。 <p>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2019年度から全学的に新しい成績評価基準が導入されるにあたって、従来あった「A+」評価に関する学部独自基準（講義科目は「上位 10%程度」、「演習」「外国語」等の少人数科目は「上位 20%程度」を上限とする）を見直し、すべての「S」評価を履修者の「上位 20%以内」とした。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2019年度社会学部履修要綱（S評価基準について） 	
②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p>厳格な成績評価を実施するために、本学部では講義科目の「A+」評価が「上位 10%程度」か（2018年度まで）、D評価が履修者の50%以上になっていないかを執行部・教務委員会で確認している。</p> <p>このほか、各科目、ならびに「3つの科目群」及び「3つの教育段階」ごとにGPCAデータを集計し、これを教員にフィードバックするとともに、集計結果に基づき成績評価の適切性に関する検証を執行部と教務委員会で実施している。</p> <p>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>上記のように「S」評価に関する学部基準の見直しを行なった。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2019年度社会学部履修要綱（S評価基準について） 	
③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業時に学部独自のアンケートを実施し、就職・進学状況を把握している。 ・ 就職・進学状況については、キャリアセンターからの情報を含め、教授会で共有している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生アンケート（社会学部） 	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ データの把握主体：執行部 ・ 把握方法：成績分布については、GPAを指標としてデータを構築・分析。進級・卒業状況については、学部・学科・学年単位で集計。 ・ データの種類：学科別・学年別・学部全体の集計データなど。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2018年度教授会資料 	
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>演習の履修率、進級・卒業率、卒業論文提出率など教育成果に関する基本的データについて、執行部・教務委員会及び教授会で情報共有し、検討している。例えば、学生の学修成果の最終的な指標ともいふべき「演習3（卒業論文）」の履修率は毎年度6割を超えており、専門演習の履修促進という本学部の取り組みが一定の成果を上げていることが確認されている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2018年度教授会資料 	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等）。</p> <p>・卒業時に学部独自のアンケートを実施し、学部教育に対する卒業生の評価を把握している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・卒業生アンケート</p>	
④学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。</p> <p>・「学部研究発表会」での専門演習の研究成果の可視化・発信（毎年11月）。</p> <p>・基礎演習・専門演習におけるゼミ論文の執筆奨励と「ゼミ論文集」「報告書」の公開。</p> <p>・調査実習科目における「報告書」の刊行・配布。</p> <p>・メディア実習科目における作品の公開。</p> <p>・優秀な卒業論文を選定した「優秀卒業論文集」の刊行。</p> <p>・基礎演習・専門演習の「ゼミ論文集」「報告書」刊行に対する助成金制度を始めた。</p> <p>・そのほか、授業支援システムを利用したレポート・ゼミ論文等の公開やインターネットを利用した成果物の発信など。</p> <p>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>学部で実施しているゼミ論文集の刊行助成への応募・採択件数が9件と伸びた（前年度3件）。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2018年度優秀卒業論文集</p> <p>・2018年度社会調査実習報告書（開講クラス別に刊行）</p> <p>・2018年度政策研究実習報告書（開講クラス別に刊行）</p>	
<p>1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。</p>	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p>・基礎演習：全担当者による教育方法の改善に向けた懇談会（各学期末）</p> <p>・英語科目：全担当者による教育方法の改善に向けた懇談会（春学期半ば）</p> <p>・諸外国語・情報実習科目：全担当者による教育方法の改善に向けた懇談会（年度末）</p> <p>・調査実習科目：全担当者による来年度科目の打ち合わせ（秋学期開始時）、調査実習実施に付随する問題の共有と解決（随時）、報告書の回覧（年度末）</p> <p>・学科カリキュラム運営会議での情報交換（春・秋学期各1回開催）</p> <p>こうした機会を通して、教育成果を科目担当教員間で共有し検証するよう努めている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・「2017年度春（秋）学期・基礎演習担当教員懇談会の開催について」</p> <p>・「2017年度 諸外国語科目担当者打ち合わせ会 記録」</p>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※利用方法を記入。</p> <p>・各科目の結果のフィードバックにもとづき、各教員による教育内容の改善等で活用している。</p> <p>・シラバスに、「学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき」という項目を設けている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2019年度社会学部シラバス</p>	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・2018年度から導入された新カリキュラムの円滑な運営のために、引き続き各学科の教員全員が参加する「学科カリキュラム運営会議」を春・秋学期各1回開催し、カリキュラム運営の状況を	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

評価し課題を教員間で共有している。	
-------------------	--

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

①教育課程・教育内容に関すること (1.1)

フェイク情報の蔓延と社会の分断、人口減少社会と家族の変容など、問題認識や解決のために社会的リテラシーが今までになく必要とされる現在、社会学部では「視野形成科目」や「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」など時宜を得たカリキュラム改革を行ったことは意義深い。教育課程の編成・実施方針に基づいた教育が提供され、4年間で系統的に知識、経験を積み上げる設計になっており評価できる。国際性を涵養する教育やキャリア教育も適切に提供されている。一方で、社会学に必須の素養、特に統計・数学、メディアリテラシーなどについて必修とするなどすべての学生に効果的に履修させる一層の工夫を期待したい。この点については高校段階の数学や公民、地歴科などの科目との接続、入試科目の設定などの課題も想定される。

②教育方法に関すること (1.2)

履修上のオリエンテーションは適切に行われている。また、授業を理解するための自習についても告知されており、学習指導や学習時間を確保するための方策が適切に行われている。効果的な授業形態の導入については、社会学の場合、実習、演習がとりわけ重要な教育の機会となるので、それらの少人数授業を充実させていることは適切だと思われる。「社会を変えるための実践論」の開講などから、同時代の社会現象、社会問題との関連性を確保しながら、授業内容を充実させていることもうかがえ、評価できる。

③学習成果・教育改善に関すること (1.3～1.5)

社会学部では、受動的な座学だけでなく、社会学ならではの主体的な問題設定、探求を促すための教育の工夫が行われていることがうかがえる。演習3(卒業論文)の履修率が毎年度6割を超えていることは学生の関心、意欲を引き出していることの表れとして大いに評価できる。また、論文集、実習報告書の刊行、優秀論文の顕彰なども学生の意欲を引き出すうえで効果を上げていると思われる。成績評価の標準化や、情報共有についてもデータに基づいて的確に行われていたり、また、卒業時に学部独自のアンケートを実施し学部教育に対する評価や就職・進学状況を把握・共有していることは、評価できる。

2 教員・教員組織

【2019年5月時点の点検・評価】

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①学部(学科)内のFD活動は適切に行なわれていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部FD委員会が、常設の基幹的な委員会として原則隔週で開催され、基礎演習の向上(教育内容の標準化等の検討)、専門演習の向上(学部研究発表会の運営等)、実験的授業などについて検討しているとともに、学部独自の大規模授業アシスタント・学習サポーター制度を運用することで各教員のFD活動を支援している。この委員会が、執行部、教務委員会、質保証委員会とともに学部PDCAサイクルの一翼を担っている。 個々の教員については、在外研究、国内研究・研修制度、学会出席への補助などによってその研究活動を援助することで、教員の教育研究にかかわる資質の向上を図っている。 原則、全科目を教員相互の授業参観可としているほか、複数の教員が連携する授業では互いに授業方法について意見交換するなどして、授業の質的向上に努めている。 基礎演習、外国語関連科目(英語及び諸外国語)、情報教育科目、調査実習科目、体育科目では、必要に応じて兼任講師を含めた担当教員の懇談会を開き、授業改善のための情報交換を行っている。 <p>【2018年度のFD活動の実績(開催日、場所、テーマ、内容(概要)、参加人数等)】※箇条書きで記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・FD委員会

【開催日】4月18日、4月24日、5月8日、5月22日、6月5日、6月19日、7月3日、9月25日、10月17日、10月30日、11月6日、11月20日、12月4日、1月29日

【場所】社会学部棟8階会議室B

【テーマ・内容】Ⅰ. 授業支援（大規模授業アシスタント・学習サポーター、ゲスト講師）、Ⅱ. 学部研究発表会（運営方針、スケジュール・発表内容、課題・評価）、Ⅲ. ゼミ選考プロセス（専門演習紹介パンフレット、ゼミ紹介Weeks）、Ⅳ. その他（基礎演習の改革、FD推進センターとの連絡調整）、Ⅴ. 今後の課題（学習サポーター・大規模授業アシスタント運用方法の整備・改善、FD活動の情報共有のための実践的取り組み）

【参加人数】FD委員6名

・基礎演習担当者懇談会

【開催日】(1)7月10日、(2)1月8日

【場所】多摩総合棟5階第一会議室

【テーマ・内容】(1)春学期の学生の様子について、基礎演習の今後のあり方について (2)今年度の学生の様子について、基礎演習のセメスター化の運用および結果について

【参加人数】(1)35名、(2)36名

・諸外国語関連科目担当者会議

【開催日】4月1日（2019年度に入ってから開催）

【場所】多摩総合棟5階第一会議室

【テーマ・内容】社会学部語学カリキュラムについて、2018年度授業のふり返り、2019年度クラス規模について

【参加人数】23名（教授会主任2名＋専任4名＋兼任17名）

・情報教育関連コース・プログラム会議

【開催日】10月2日、11月10日

【場所】多摩総合棟総合棟5階役員室付属会議室

【テーマ・内容】2018年度導入新カリキュラム進捗状況、新カリキュラム進行にともなう兼任講師の担当コマ移行、2018年度の新入生にむけての情報教育の趣旨・目的の周知、情報教育科目と情報デザインプログラム科目群の広報と将来構想

【参加人数】5名（専任5名）

・情報教育関連懇談会

【開催日】11月20日

【場所】多摩総合棟3階情報講師控室

【テーマ・内容】2018年度導入新カリキュラムの説明、新カリキュラム進行にともなう兼任講師の担当コマ移行、2019年度の新入生にむけての情報教育の趣旨・目的の周知、情報教育科目と情報デザインプログラム科目群の将来構想

【参加人数】10名（専任4名）

・調査実習運営委員会

【開催日】4月3日、10月30日、11月29日、12月16日、1月7日、1月24日、3月13日

【場所】社会調査室

【テーマ・内容】(4月3日)2017年度実習のふり返り、2018年度実習運営に関する相談、実習担当者の確認、社会調査室の整備、新カリ移行にともなう受講生数の把握と今後の相談

(10月30日)新カリ移行に伴う調査士科目受講生数の情報共有、学科ガイダンス担当者の確認、社会調査室の整備、来年度実習担当者の確認、調査士科目に関するゾーン表の確認等

(11月29日)2019年度社会調査士科目認定申請について

(12月16日)2018年度社会調査士資格申請希望者への連絡に関する確認

(1月7日)2018年度社会調査士資格申請希望者への指導に関する確認

(1月24日)2018年度社会調査士資格のウェブ申請にあたっての注意点の確認と今後のスケジュールの確認

(3月13日)2019年度実習運営委員会の日程調整、2019年度社会調査実習ガイダンス・社会調査士ガイダンスに関する確認

【参加人数】専任教員10名

・体育科目担当者懇談会

【開催日】(1)7月20日、(2)1月18日

【場所】多摩総合体育館2階講師室

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>【テーマ・内容】(1)春学期授業のふり返り、秋学期にむけての課題整理 (2)秋学期授業のふり返り、次年度にむけての課題整理</p> <p>【参加人数】(1)14名(専任1名+兼任13名)、(2)13名(専任1名+兼任12名)</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2018年度FD委員会報告書</p>	
<p>②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>社会学部では研究活動の活性化と資質向上のために、年4回学部紀要『社会志林』を刊行している。また、大学院社会学研究科と共同で教員や大学院生が研究成果を報告し意見交換を行う「社会学コロキウム」を年3回開催している。社会貢献活動の面では、多摩地域交流センター、グローバル教育センターが進める事業への協力を通じて、社会貢献・社会連携を図っている。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・学部紀要『社会志林』</p> <p>・「社会学コロキウム」プログラム</p>	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<p>・基礎演習、外国語関連科目、情報教育科目、調査実習科目、体育科目では、必要に応じて兼任講師を含めた担当教員の懇談会を年数回開き、授業改善のための情報交換を行っている。</p>	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<p>・特になし</p>	

【この基準の大学評価】

<p>社会学部内のFD活動については、学部FD委員会の常設での設置や学部独自の大規模授業アシスタント・学習サポーター制度の運用によって、各教員のFD活動を支援している。また、カリキュラム改革を契機に、毎学期カリキュラム運営会議を開き、さらに演習、語学などの科目ごとに教育方法について考える場を定期的に設けているなど、学部教員がその改革の狙いを実現するために問題意識を共有して、教育方法、教育課程の改善に取り組んでいることがうかがわれる。社会貢献については地域での社会教育への参加を継続しているが、さらに多彩な研究者がそれぞれ社会に対して発信していくことを学部としても奨励し、存在感を高めることが必要となると思われる。</p>

III 2018年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	<p>①2018年度から導入した新カリキュラムの円滑な運営を図る(2018年度～2021年度)</p> <p>②2018年度生の専門教育が本格化する2020年度以降、新カリキュラムの教育効果に関する中間評価に着手し、改善の必要性についても検討する。</p>
	年度目標	<p>①教授会および年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」において、新カリキュラムの運営状況について、教員間で情報共有を図る。</p> <p>②新カリキュラム下での学習の円滑化を図る。</p>
	達成指標	<p>①教授会・「学科カリキュラム運営会議」などを開催することで、カリキュラムの運営状況に関する情報共有と改善点の洗い出しが行われている。</p> <p>②学生に対し、適切なガイダンスが実施されている。</p>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	①「学科カリキュラム運営会議」を年2回(6/29、10/2)開催し、学科ごとにカリキュラムの運営状況に関する情報共有や次年度に向けて対応すべき課題の共有をすることができた。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		<p>運営会議の議長を教務委員に依頼することで、執行部とのやり取りも密になり、目標を達成できた。</p> <p>②これまで全学科一括で行なっていた1年生秋学期のガイダンスを学科別に設定し、コースの説明を詳細に行うことができ、目標を達成できた。</p>	
	改善策	—	
	質保証委員会による点検・評価		
	所見	・学科カリキュラム運営会議などを通じて、各学科に関連する教員間の情報共有・意見交換が円滑に行われることにより、新カリキュラムの移行を総じて順調に滑り出せることに奏功したと評価できる。	
	改善のための提言	・来年度、専門科目・専門演習の新カリキュラムのもとでの演習が始まると、より個別の対応や調整が求められる可能性もあるので、引き続き執行部と教員、教員相互間の円滑な情報共有、連絡調整を心掛けるように努められたい。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	①学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ②学習効果向上のため、授業時間外で行う学習について適切な指導を行う。	
	年度目標	①教員による履修相談会、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンスを着実に実施していく。 ②学習効果を向上させる授業時間外学習の指導のために、シラバスで必要な授業時間外学習を明示する。また、教務委員会・FD委員会を中心として、授業時間外学習指導の方法について検討する。	
	達成指標	①教員による履修相談会、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンスによって、学生への学習指導が的確に行われている。 ②シラバスで授業時間外学習の内容が明示されている。授業時間外学習の指導方法について検討が行われている。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	①春学期初めの履修登録時、および1年生秋学期のコース選択時に、教務委員による個別相談会を開催し、学生の履修指導を行なった。 前年度の成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」を春学期に開催し、個別の学生の履修上の問題点について指導を行なった。 ②教員が作成したシラバスに、授業時間外学習の内容と指導方法について明示されているが教務委員会でチェックし現状を把握するとともに、記載が不適切な場合にはシラバスの改善を教員に求めるなどした。
		改善策	—
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	・成績不振学生に対する個別指導や教務委員によるシラバスチェックは順調に定着している。
	改善のための提言	・今後は、左記施策の成果の把握に努め、不断の改善に努められるように期待する。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
3	中期目標	①基礎演習の教育内容の向上、専門演習選考方法の改善に取り組み、少人数教育の一層の充実化を進める。 ②学部教育の到達点となる演習3について履修率を高め、卒業論文の提出率を向上させる。また、優秀卒業論文集の継続的刊行と各演習での活用を行う。 ③ゼミ論文集の作成、学部研究発表会の実施等により、専門演習の成果の発信と教育内容の充実化を図る。	
	年度目標	①基礎演習の教育内容の向上のために、基礎演習担当者による懇談会の成果を活用する。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		②演習3の履修率を高め、卒業論文の提出率を向上させるために、演習3の運営実態を把握する。
	達成指標	①基礎演習担当者による懇談会の成果を活用して、必要に応じて、基礎演習の教育内容の向上策を提案できている。 ②演習3の運営実態を把握することで、必要に応じて、演習3の履修率を高め、卒業論文の提出率を向上させるための提案ができている。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	①春学期(7月10日)、秋学期(1月8日)と年2回基礎演習担当者による懇談会を開催し、今年度基礎演習の運用について意見交換を行なった。 ②卒業論文の提出率は今年度全履修者の64.5%(前年度63.0%)と若干の提出率向上が見られた。 ③学部で実施しているゼミ論文集の刊行助成への応募・採択件数が9件と大幅に伸びた(前年度3件)。また、優秀卒業論文集の刊行も継続することができた。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	・基礎演習担当者の懇談会は、担当教員間の情報・意識共有に貢献したものと評価できる。また、卒業論文の提出率が、わずかではあるが上昇しているのも期待が持てる動きといえよう。 ・ゼミ論文集の刊行助成や優秀卒業論文集の刊行が定着してきたことは評価できる。
改善のための提言	・基礎演習履修率の検証を通じて、新カリキュラムの基礎演習のあり方を執行部・担当教員間で引き続き議論していくことが求められる。	
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	①「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」を満たすように入学生員の的確な査定を行う。 ②入試経路の多様化のために、必要に応じて新しい入試制度の導入を検討する。
	年度目標	①入学生員が「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」を満たすように入学生員の的確な査定を行う。 ②入学センターから入試制度の導入のための情報収集を行う。
	達成指標	①「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」に沿った入学生員比率を堅持できている。 ②入試制度の導入を検討するための情報を収集できている。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	①合格者を決める際に、「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」を常に意識して査定を実施した ②6月26日入学センターの査定担当者を執行部会議に招き、入試制度についての情報収集を行なった。
改善策	—	
年度末報告	質保証委員会による点検・評価	
	所見	・入学試験の際の合格者査定方法の改善などにより、教育水準の維持向上や大学経営にとって重要な課題である学生定員の適正化が進んでいることは高く評価する。
	改善のための提言	・他大学の動向や志願者の行動は短期間にかかなり大きく変化することもありうるので、引き続き情勢の把握・分析に努められたい。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	①2017年度人事構想委員会答申に沿って適切な専任教員の採用を順次実行していく。
	年度目標	①専任教員の欠員状況などを確認し、必要な専任教員の採用を行う。
	達成指標	①専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	S	
		理由	①2017年度人事構想委員会答申に沿って、今年度は各学科1名計3名の採用人事を行なった。	
		改善策	—	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	・人事構想委員会答申に沿って、各学科1名計3名の採用人事が円滑に行われたことは評価できる。	
		改善のための提言	・今後、専任教員の退職が相次ぐと見込まれるなか、教員組織の充実に向け、引き続き計画的な補充を行ってほしい。	
No	評価基準	学生支援		
6	年度末報告	中期目標	①オフィスアワーやゼミなどによる日常的な指導および、成績不振学生を通じた個別学習相談会によって学生への修学支援を着実に実施する。	
		年度目標	①「個別学修相談会」を実施し、成績不振学生を対象として、履修指導を中心とした修学支援を行う。 ②オフィスアワーの実施を徹底する。	
		達成指標	①「個別学修相談会」を通じ、成績不振学生の修学支援の成果ができています。 ②オフィスアワーが設定されている。	
		教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	①前年度の成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」を春学期に開催し、個別の学生の履修上の問題点について指導を行なった。 ②各教員がオフィスアワーを設定し、シラバスで学生への周知をはかった。	
		改善策	—	
質保証委員会による点検・評価				
所見	・成績不振学生に対する個別学修相談会は、順調に定着している。オフィスアワーの設定、学生への周知も適切に行われている。			
改善のための提言	・学生がオフィスアワーを利用しやすくするために、引き続き周知方法などを工夫してほしい。			
No	評価基準	社会連携・社会貢献		
7	年度末報告	中期目標	①多摩キャンパスで取り組んでいる多摩シンポジウムの運営、多摩地域交流センター、グローバル教育センターが進める事業を通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。 ②大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などを通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。	
		年度目標	①多摩シンポジウムの運営、多摩地域交流センター、グローバル教育センターが進める事業を着実に実施する。 ②・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などへの参加を継続する。	
		達成指標	①多摩シンポジウムの運営、多摩地域交流センター、グローバル教育センターが進める事業を実施している。 ②大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などに参加している。	
		教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	①多摩シンポジウム、多摩キャンパスコンサート、多摩地域交流センター、グローバル教育センターに委員を派遣し事業実施に協力した。 ②八王子学園都市大学「いちよう塾」、町田市市民講座などに講師を派遣した。 ③その他各教員が演習などを通じ、独自に社会貢献・社会連携を行なっている。	
		改善策	—	
質保証委員会による点検・評価				

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	所見	・多摩地域の自治体への講師派遣、地域連携を目指す大学の事業への参加など、社会貢献・社会連携への取り組みが着実に進んでいる。
	改善のための提言	・引き続き社会貢献・社会連携の方途の拡充に努められたい。
<p>【重点目標】 社会学部にとっては、2018年度から導入した新カリキュラムの円滑な運営を図ることが最も重要である。そのために、教授会および年2回開催する「カリキュラム運営会議」において、新カリキュラムの適切な運営が図られているか専任教員間で情報共有を行う。また、1年生のコース登録前に各学科のコースガイダンスを実施することによって、1年次の学生が新カリキュラムにスムーズに適應できるように修学支援を行う。</p>		
<p>【年度目標達成状況総括】 2018年度から導入した新カリキュラムの円滑な運営を今年度の重点目標としたが、大きな混乱もなく運営することができた。これは、①教授会や年2回開催した「カリキュラム運営会議」において新カリキュラムの運用状況をこまめにチェックし情報共有を行なったこと、②1年生のコース登録前に各学科のコースガイダンスで教員が工夫を凝らした説明資料を用意したこと、③履修登録時と1年生秋学期のコース選択時に教務委員による個別相談会を開催したことなどの効果によるものと思われる。</p>		

【2018年度目標の達成状況に関する大学評価】

<p>2018年度は社会学部にとってカリキュラム改革が動き始めた重要な年度であり、教員組織において頻繁かつ入念な教育方法に関する検討会議が持たれたことで、教育体制の整備は進んでいると評価できる。新カリキュラムの理念や狙いが学生にどのように受け止められ、今後どの程度浸透したかについて、十分な検証が求められる。また、多様な関心をもって入学し、1年目の学習をした学生に対して、コース選択のための必要な情報が的確に提供されたかどうかについても、今後の検証そして成果に期待したい。演習3（卒論）の履修率（提出率）が増加したことは、学部側の改革の意図にこたえて学生の能動的な学習意欲が高まったことの反映と評価できる。</p>

IV 2019年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	①2018年度から導入した新カリキュラムの円滑な運営を図る（2018年度～2021年度） ②2018年度生の専門教育が本格化する2020年度以降、新カリキュラムの教育効果に関する中間評価に着手し、改善の必要性についても検討する。
	年度目標	①教授会および年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」において、新カリキュラムの運営状況について、教員間で情報共有を図る。 ②新カリキュラム下での学習の円滑化を図る。
	達成指標	①教授会・「学科カリキュラム運営会議」などを開催することで、カリキュラムの運営状況に関する情報共有と改善点の洗い出しが行われている。 ②学生に対し、適切なガイダンスが実施されている。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	①学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ②学習効果向上のため、授業時間外で行う学習について適切な指導を行う。
	年度目標	①教員による履修相談会、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンスを着実に実施していく。 ②学習効果を向上させる授業時間外学習の指導のために、シラバスで必要な授業時間外学習を明示する。また、教務委員会・FD委員会を中心として、授業時間外学習指導の方法について検討する。
	達成指標	①教員による履修相談会、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンスによって、学生への学習指導が的確に行われている。 ②シラバスで授業時間外学習の内容が明示されている。授業時間外学習の指導方法について検討が行われている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	①基礎演習の教育内容の向上、専門演習選考方法の改善に取り組み、少人数教育の一層の充実化を進める。 ②学部教育の到達点となる演習3について履修率を高め、卒業論文の提出率を向上させる。また、優秀卒業論文集の継続的刊行と各演習での活用を行う。 ③ゼミ論文集の作成、学部研究発表会の実施等により、専門演習の成果の発信と教育内容の充実化を図る。
	年度目標	①基礎演習の教育内容の向上のために、基礎演習担当者による懇談会の成果を活用する。 ②演習3の履修率を高め、卒業論文の提出率を向上させるために、新カリキュラムの中での演習3の位置付けを検討する。
	達成指標	①基礎演習担当者による懇談会の成果を活用して、必要に応じて、基礎演習の教育内容の向上策を提案できている。 ②新カリキュラムの中での演習3の位置付けを検討し、優秀卒業論文集の活用を促すなど、演習3の履修率を高め卒業論文の提出率を向上させるための取り組みが進んでいる。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	①「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」を満たすように入学生員の的確な査定を行う。 ②入試経路の多様化のために、必要に応じて新しい入試制度の導入を検討する。
	年度目標	①入学生員が「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」を満たすように入学生員の的確な査定を行う。 ②入学センターから最新の入試動向などの情報収集を行う。
	達成指標	①「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」に沿った入学生員比率を堅持できている。 ②新たな入試制度を検討するために入試動向についての最新の情報を収集できている。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	①2017年度人事構想委員会答申に沿って適切な専任教員の採用を順次実行していく。
	年度目標	①専任教員の欠員状況などを確認し、必要な専任教員の採用を行う。
	達成指標	①専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	①オフィスアワーやゼミなどによる日常的な指導および、成績不振学生を通じた個別学習相談会によって学生への修学支援を着実に実施する。
	年度目標	①「個別学修相談会」を実施し、成績不振学生を対象として、履修指導を中心とした修学支援を行う。 ②オフィスアワーの実施を徹底する。
	達成指標	①「個別学修相談会」を通じ、成績不振学生の修学支援の成果ができている。 ②オフィスアワーが設定されている。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	①多摩キャンパスで取り組んでいる多摩シンポジウムの運営、多摩地域交流センター、グローバル教育センターが進める事業を通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。 ②大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などを通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。
	年度目標	①多摩シンポジウムの運営、多摩地域交流センター、グローバル教育センターが進める事業を着実に実施する。 ②・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などへの参加を継続する。
	達成指標	①多摩シンポジウムの運営、多摩地域交流センター、グローバル教育センターが進める事業を実施している。 ②大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などに参加している。
【重点目標】		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

社会学部にとっては、2018年度から導入した新カリキュラムの円滑な運営を図ることが最も重要である。今年度は新カリ2年目にあたり、教授会および年2回開催する「カリキュラム運営会議」において、新カリキュラムの適切な運営が図られているか専任教員間で引き続き情報共有を図る。昨年度実施した1年生コース登録前のコースガイダンスが適切であったかなど成果を確認しながら、学生が新カリキュラムにスムーズに適応できるように修学支援を行う。

【2019年度中期・年度目標に関する大学評価】

2018年度から導入された新カリキュラムでは、学科ごとに体系がわかりやすく整理されたことにより、毎年実施されている履修相談会における相談件数に減少傾向が見られており、一定の効果が出ているのではないかとと思われる。今後は、新カリキュラムの実施がもたらす教育上の効果に関して、中期目標の中に記載されている「中間評価」において、学生からも何らかのフィードバックを得ることが必要と思われる。特に、基礎段階で提供された講義、演習等に対する学生の反響、それが社会学に向けた学生の知的意欲、関心を喚起することに成功しているかどうか、検証することが重要と思われる。目標中の、基礎、専門の演習の強化、それに基づく卒業論文作成者の増加を図ることは、重要であり、成果が上がることを期待したい。

【法令要件及びその他基礎的要件等の遵守状況】

特になし

【大学評価総評】

社会学部は2018年度からカリキュラム改革を実施し、新たな理念の下で教育体制をより体系化、重層化した。また、教員組織も、改革の理念を実現するために、教育方法や教育課程に関する全体的、分野別の議論の場を確保し、全体として教育改革に取り組んでいることがうかがえる。必要な専任教員の確保もなされている。この点は、他の学部にとっても大いに参考となるとと思われる。

その中でも、1年次の段階で幅広く社会学、さらに社会科学全般についての知識、素養を身に付け、2年次に進級する段階でコース選択をさせるという学習過程の設計は合理的である。カリキュラム改革の意図が実現するかどうかは、基礎段階から専門段階への発展的接続ができるかどうかにかかっていると思われる。これから新カリキュラムの下で教育を重ねていく中で、改革の趣旨が徹底しているかどうかを検証しながら、新たな教育体系を実践することが必要と思われる。その中で、学生からのフィードバックを確保し、学ぶ意欲を引き出すための一層の工夫が求められる。中期目標の中ではそういった問題意識は明記されているので、その実現を期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基礎的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。